

中々困難ナルヘシ云々ト語レリ
右御参考迄報告ス
本信写送付先

在露大使、在支公使、奉天、哈爾濱各總領事、関東庁
齊々哈爾濱鐵公所、在哈爾濱安藤中佐

(3) 吉敦鐵道關係

一〇五五 一月三日 幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛 (電報)

吉敦鐵道問題ハ地方当局トノ間ニ具體的協定
成立ノ上公表スル意向ナル旨通報ノ件

付記一 大正十四年十二月三十一日在中国芳沢公使宛
幣原外務大臣宛電報第一二三九号

外務省スポークスマンガ吉敦鐵道建設ニ關ス
ル密約ヲ否認セリトノ新聞報道ニ關スル件
二 大正十四年十二月二十九日木村亞細亞局長述
柳井事務官記

吉敦鐵道敷設問題ニ關スル松岡理事ノ國際通
信ノ會見談

第一号

貴電第一二三九号吉敦線問題ニ關シ

第二二三九号

(大正十五年一月一日接受)

往電第一二二二号ニ關シ

十二月三十日ノ当地英字新聞ハ二十九日ノ「ルーター」東京特電トシテ我カ外務省「スポークスマン」カ全然吉敦鐵道建設ニ關スル密約ヲ否認セルコト並ニ本件ハ将来提議セラルヘキモ日本政府ハ目下未タ其時機ニアラスト思惟シ居ルモノト認メラル旨ヲ報シ更ニ松岡氏ハ二十八日國際通信員トノ會見ニ於テ最近滿鉄ト支那交通部トノ間ニ契約締結セラレタル事実ヲ承認シ右ハ別ニ秘密ニアラサルモ日本政府ハ之カ承認ヲ拒絕スヘシト解スル旨語リタル趣ヲ付記セル処政府ニ於テハ本件鐵道工事請負契約ヲ洩洩鐵道契約ト同様取扱振リヲ以テ先ツ借款團關係國政府ニ内報シ時機ヲ見テ借款團ニモ内示セシメラル御方針ト解シ差支無キヤ当方今後ノ宣伝等ニ關スル措置振リノ上ニモ承知シ置キ度キニ付何分ノ儀至急御回答アリタシ

(付記二)

吉敦鐵道敷設問題ニ關スル松岡理事ノ國際通信ノ會見談

貴地英字新聞ノ所謂外務省「スポークスマン」及松岡ノ談ナルモノハ何レモ若干誤伝アル処本件ハ御承知ノ通從來経緯アル問題ニシテ洩洩線ノ如ク新線ノ布設問題ニ非ス借款團及關係列國トノ關係モ亦洩洩線ト同様ニ律スルノ要ナシ從テ過般滿鉄ト北京当局トノ間ニ本件契約大綱成立シタルニ付テハ追テ地方当局トノ間ニ具體的協定成立ノ上ハ率直ニ之ヲ公表スヘキ意向ナリシカ最近貴地方面ニ貴電第一二二三号ノ如ク贈賄密約説等ヲ唱ヘテ殊更ニ日本ヲ誹議スル無根ノ宣伝行ハレ居ルニ顧ミ十二月二十八日松岡ヲシテ當方ト協議ノ上國際通信ニ對シ會見談ヲ發表セシメ置キタル次第ナリ (要領貴地滿鉄公所長ヨリ貴官ニ通報済ノ筈) 就テハ本件ハ前記細目協定成立シ發表ノ運ニ至ル迄暫ク此ノ儘ニ為シ置カレ度ク尚特ニ問合ノ向ニ對シテハ前記ノ次第御含ノ上可然応酬シ置カレ度シ
奉天ハ電報シ奉天ヨリ吉林ヘ暗送セシメラレ度シ

(付記一)

大正十四年十二月三十一日在中国芳沢公使宛幣原外務大臣宛電報第一二三九号

外務省スポークスマンガ吉敦鐵道建設ニ關スル密約ヲ否認セリトノ新聞報道ニ關スル件

吉敦鐵道契約ニ關シ新聞紙上密約説伝ヘラレ且外國通信ニ於テモ葉交通總長ト松岡理事トノ間ニ一種「スキヤンダ」式ノ密約締結セラレタル旨報道シ居ルヲ以テ十二月二十九日松岡理事ハ國際通信岩永ニ對シ「インターヴュー」ノ形式ニテ大要左ノ通り談話シ之ヲ電報セシメタリ

一、吉敦鐵道問題ハ日支間永年ノ懸案トシテ公知ノ事實ニ屬スルモノニシテ過般松岡理事北京出張ノ際葉交通總長トノ間ニ之ヲ解決シタルニ過キス

二、右吉敦鐵道契約ハ松岡理事ト正當政府ノ正當ナル權限ヲ有スル葉交通總長トノ間ニ公然締結シタルモノニシテ密約ニ非ス

三、本件契約ノ内容ハ工事請負契約ニシテ世上伝ヘラルル内容トハ異ル

從テ工事ニ着手スルニ非ムハ金員ノ支出アルヘキ理ナク所謂前貸金等ノ問題ハ性質上アリ得サルノミナラス事實上何等此ノ種支出ヲ為シタルコトナシ

四、本件契約ハ前述ノ如ク日支間永年ノ契約ヲ解決セルモノニ他ナラサルモ契約締結ノ時恰モ支那動亂勃發シ爾來引續支那ノ事態混亂セルニ顧ミ外間無用ノ誤解ヲ避ク為

メ暫ク之カ公表ヲ差控ヘタルニ過キス

(大正十四年十二月二十九日)

木村亜細亞局長述柳井事務官記)

一〇五六 一月七日 在長春栗原領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

交通部ニヨル魏吉長鐵路局長罷免ニ関シ報告

ノ件

第一号

当地滿鉄側ノ情報ニ依レハ北京交通部ハ客年十二月二十五日付ヲ以テ突然吉長鐵路局長魏武英ヲ罷免シ同局李總務処長ヲ後任局長ニ任命シ来リタルカ魏ハ事ノ意外ナルニ驚キ早速張作霖ニ面謁指令ヲ仰キタルニ張ハ中央政府ノ命令ニ順着ナク依然局長トシテ東三省交通委員會ノ命令ノ下ニ繼續執務スヘキ旨ヲ申聞ケタル趣ナリ然ルニ滿鉄側ハ交通部トノ協定ニ基キ同鐵道ノ委任經營ヲ為シツツアル關係上表向右命令ヲ無視スル訳ニモ行カス頗ル機微ノ立場ニ介在スルコトトナリタルノミナラス直接吉敦鐵道問題ニモ累ヲ及ホス惧アルカ為メ中川滿鉄代表ハ急遽奉天ニ赴キ六日同地着ノ予定ナル松岡理事トモ協議ノ上善後措置ヲ講スルコト

葉恭綽ノ吉敦鐵道内容ノ声明通電

北京各部院銀行公会及各銀行轉達、各省軍民長官、各法团、各報館宛

恭綽病氣静養兩ヶ月久シク世縁ヲ謝シ時事ヲ聞カス昨日新聞ヲ見ルニ交通部八百万借款及吉敦路借款ノ二項ヲ掲載セルカ頭カニ事実ニ合セサルモノナルヲ以テ特ニ声明シテ真相ヲ明カニス交通部歷年ノ内外小借款ハ七百余萬元ニシテ利息極メテ重ク一割五六分ニ達スルモノアリ且ツ部中ノ物産ハ尽ク抵当トシテ融通ノ道ナク恭綽就職後債權者ト交渉シ本年八月交通部ニ於テ借換券ヲ与ヘ散漫ナルヲ整理シ抵当品ヲ回收シ改メテ鐵道收入ノ郵便運賃ヲ抵当トシ一ヶ年利息數十萬元ヲ輕減セリ之ハ旧債ヲ整理セルモノニシテ何ソ新借款八百万元ノ事アラシヤ又郵便收入ヲ以テ抵当トセルコトナシ又該借款ノ行方不明ナリト云フハ更ニ笑フヘキナリ吉敦鐵道ニ至リテハ吉長線ノ延長線ニシテ吉長ノ線路甚タ短ク發展ヲ期シ難シ又吉林ノ物産豊富ニシテ輸出困難ナリ以上兩点救済ノ目的ヲ以テ早クヨリ増築ノ議アリ本年夏南滿会社ト交渉ヲ開始シ交通部ニ於テモ特ニ慎重審査シテ交渉数日ノ後始メテ築造請負ノ弁法ヲ訂立シ以テ借款ノ

トナレリ

北京、奉天、吉林、哈爾賓へ転電セリ

一〇五七 一月八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

吉敦鐵道契約内容ニ関スル葉恭綽ノ声明通電

報告ノ件

公第三三三号

(一月十九日接受)

大正十五年一月八日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉敦鐵道契約内容ニ関スル葉恭綽

ノ声明通電報告ノ件

吉敦鐵道契約ノ内容ニ関スル葉恭綽ノ声明通電一月七日ノ当地京報ニ掲載セラレタル処右ハ在吉林總領事發閣下宛電報第一号末段ノ葉恭綽ノ弁明電ト同一ノモノカト思考セラ

ルルニ付右通電訳文別紙ノ通り送付ス
本信写送付先 奉天 吉林

(別紙)

旧弊ヲ避ケタリ我國權利極メテ重ク資金ニ少シノ割引ナク何時ニテモ全部返還スルコトヲ得ヘク別ニ声明書ヲ付シ居リ絶對ニ軍政上ニ流用スルコト能ハス況ンヤ未タ分文モ受取ラサルニ於テオヤ此ノ外決シテ秘密ノ付屬書ナシ新聞紙上ニ所謂資金ヲ軍費ニ流用セルハ全然虚報ニシテ南滿会社ニ間合セハ明カナリ思フニ此ノ種ノ請負契約ニシテ運用宜敷ヲ得ハ從來ノ如何ナル鐵道契約ニ比較スルモ利多ク損少キモノナリ吉会案ノ存廢ハ別問題ニシテ此ノ問題ト相妨ケス且吉長原契約ノ改訂及吉会案ノ廢棄ハ或ハ本契約ニヨリ促進スルコトヲ得ヘシ明眼者ハ能ク瞭然タルヘシ恭綽交通ニ從事スルコト多年自ラ顧ミテ大体ニ於テ慎重ナリ只遠道伝聞シテ誤解セラレンコトヲ恐ル特ニ要ヲ撮ミテ弁明ス云々

一〇五八 一月九日 在長春栗原領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ガ交通部ノ命令ニ服セズ吉敦鐵道ノ工事着手決定ノ意向ナル旨中川滿鉄代表談話ノ

件

第二号

往電第一号ニ関シ

八日奉天ヨリ帰來セル中川滿鉄代表ノ談話左ノ通
張作霖ハ只ニ魏局長罷免ノ命令ニ服從セサルニ止マラス去
ル四日交通部及關係各鐵路局長ニ對シ東三省交通委員會ノ
名ヲ以テ客年十一月以降ノ交通部命令ニハ一モ服從セサル
旨通告シ獨立の態度ヲ示スニ至リタルカ為メ松岡理事モ地
方權力者ト協調ヲ保タサル以上吉長鐵道ノ委任經營不可能
ナリトノ理由ニヨリ張ノ方針ニ順應シ行動スルコトニ決定
セリ尤モ新任李局長ハ自己ノ立場ニ困惑シ中川トモ打合セ
ノ上交通部ニ辭職ヲ電請スルト共ニ一時何処カヘ姿ヲ隠ス
コトトナレリ尚吉敦鐵道問題ニ関シ張ハ贈賄、密約說等唱
道セラレツツアルニ憤慨シ世人ノ疑惑ヲ一掃セシムル上ニ
於テモ此際積極の二成行一切ヲ發表スル方得策ナリト認メ
來ル十四、五日頃奉天ニ於テ張又ハ王永江ノ名ノ下ニ同鉄
道ノ産業開發ニ極メテ有利ナル所以ヲ又魏局長ノ名ヲ以テ
借款契約全文ヲ公表シ右ト同時ニ吉敦鐵路局ノ看板ヲ掲ケ
建設工事ニ着手セシムルコトニ決定シ魏局長モ之カ打合セ
ノ為メ一兩日中ニ奉天ニ出張スルコトトナレリ（滿鉄側モ
松岡ヨリ「ステートメント」ヲ發表スルニ至ルヘシト）尚

ツテ發表ノ時期ハ一月二十日過キトナルヘキニ付奉天側ニ
於テモ我方ト歩調ヲ合セテ發表スル様可然御配慮相成度發
表期日確定次第委細電報スヘシ

一〇六〇 一月十二日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

吉敦鐵道契約ノ無効決議ニ関スル陸交通部長
ノ談話ニ對スル館員ノ応酬振り報告及ビ契約
ノ内容發表ハ実益ナキ旨申進ノ件

第二三号

（一月十三日接受）

客年往電第一二三九号ニ関シ

(一) 吉敦鐵道契約ハ許内閣第一次國務會議ニ於テ無効トシテ
取消ヲ決議シタル趣ハ滿鉄側ヨリ既ニ御聞及ヒノコトト
存スル処十日交通部次長陸夢熊ノ談話ニ依レハ右ハ事實
ニテ元來該契約ハ前交通總長及次長ノ辭職後始メテ其存
在ヲ発見シ夫迄ハ何人モ之ヲ知ラサリシ次第ナリ旁々手
続不完全ニシテ取消トナリタリト云ヒ尚右契約ハ公使館
(二) モ知ラレサル松岡理事ノ秘密の二重外交ノ結果ニ
シテ右鐵道敷設ハ日本一部數十年來ノ希望達成ヲ試ミタ
ルモノニシテ政府ハ之ヲ承認スル能ハサル次第ナリトテ

又張ハ松岡ニ對シ第一次奉直戰爭當時ヨリモ一層徹底的ニ
東三省獨立ノ態度ヲ執ル決心ナル旨内話セリトノコトナリ
云々

北京、奉天、吉林へ転電シ哈爾濱へ暗送セリ

一〇五九 一月十一日

木村重細重局長ヨリ
在大連松岡滿鉄理事宛（電報）

吉敦鐵道契約ハ外務省ト滿鉄ガ内容日時ニツ
キ打合セノ上發表シタキ意向ノ件

（暗号）

入江理事宛貴電吉敦契約發表ニ関シ

本件ハ最近北京其ノ他ノ方面ニ於テモ寧ロ下火トナリタル
ノミナラス魏局長辭職問題ニ對スル張作霖ノ態度ニ徴スル
モ此ノ際躁急發表ノ必要ナキカ如ク思考セラレ且若シ外務
省滿鉄双方ノ發表ニ不統一ノ点アル場合ニハ却テ世上ノ誤
解ヲ惹起スル虞アルニ付矢張過般貴職ト打合ノ通り右双方
同様ノ文句ニテ同時日ヲ期シ發表シ度キ意向ナリ尚長春栗
原領事來電ニ依レハ奉天官憲ニ於テハ來ル十四、五日本件
發表ノ予定ナル由ナル処外務省トシテハ發表ニ際シ本件鉄
道ノ沿革ヲ略記セル前文ヲ付シ且英訳ヲ添ヘ度キ考ニテ從

右契約取消ヲ弁明シ居タリ

(一) 之ニ對シ館員ハ(一) 右契約ハ請負契約ニシテ滿鉄ナル会社
カ支那当局ト締結スルハ恰モ海軍省カ軍艦ヲ外国会社ニ
請負ハシムルト異ラス從テ秘密トカ二重外交等ノ問題ニ
非ス(二) 右契約ハ總長及次長ト正當ニ締結セラレタルモノ
ニシテ新内閣ニ於テ勝手ニ打消シ得ヘキモノニ非ス一方
的ニ取消シタリトテ相手方ハ之ヲ承認スルヤハ疑問ナリ
又總長次長ノ承知シテ行ヒタルモノナラハ何等異式又ハ
個人的内密ノモノト云フヲ得ス若シ然リトセハ今後何人
モ總長次長ト相談モ出来ヌ誤ナリ(三) 且交通部ノ一役員カ
全然内容ノ異リ居ルモノヲ公然誠シヤカニ發表シ盛ニ排
日宣傳ヲ為シタルヲ責任アル当局カ默許セラルルハ聊諒
解ニ苦シムル処ナリ云々ト述ヘテ反省ヲ求メ置キタリ

(三) 右様ノ次第ニテ右契約ノ内容ハ極メテ平凡ノモノナルハ
勿論ナルモ右ハ吉敦請負契約其モノニ關スル問題ニ非ス
シテ前記陸ノ談話ニテ御推知ノ通日本カ過去ニ於テ計画
セル吉会鐵道其他ノ滿蒙經綸ノ一部ナリトシテ大袈裟ニ
排日材料ニ用ヒラルル傾アルニ付此上契約ノ内容ヲ發表
スルモ反對派ハ益々曲解ヲ事トスルノミニテ何等ノ実益

九 東三省鐵道問題 一〇六一 一〇六二

ナカルヘク此際可成沈黙ニ過シ實際上着々事業ノ遂行ヲ期スル事實益ヲ收ムル所以ト思考ス尤モ外國人等ノ誤解ハ充分之ヲ解クノ要アルニ付契約内容等ニ付説明ヲ与フルハ別問題ナリトス

一〇六一 一月十三日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吉敦鐵道契約ノ不成立ニ関スル執政指令公布ノ件

第二五号

往電第二三号ニ関シ

十三日政府公報ニテ大要左ノ如キ十二日付執政指令ヲ公布セリ

前任葉總長在任中滿鉄ト締結ノ吉敦鐵道契約ニ関シ該鐵道ハ土地辺在セルニ付右契約取消又ハ当分實施延期方外交部ト協議スヘキ旨交通總長ヨリ上申アリタル処該契約ハ未タ國務會議ニ提出セラレサルモノニ付交通部ヲシテ不成立ヲ声明セシメ尚ホ秘密締約ノ事情ヲ查明弁理セシム

奉天、哈爾濱、吉林、長春ヘ転電セリ

奉天、哈爾濱、長春、吉林ヘ転電セリ

一〇六三 一月二十三日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

吉敦鐵道問題ニ関シ外交部ニ抗議申入ノ件

付屬書一

一月十六日付中国交通部ヨリ南滿鐵道株式會社宛第七二号信写

吉敦鐵道請負契約不成立ノ旨通告ノ件

二

一月二十二日付在中国芳沢公使ヨリ王外交總長宛公文写

吉敦鐵道請負契約不成立ニ関シ抗議ノ件

機密第一〇七号 (二月六日接受)

大正十五年一月二十三日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉敦鐵道問題ニ関シ外交部ニ抗議申入ノ件

吉敦鐵道契約不成立ニ関スル執政指令公布ノ件ニ付キテハ一月十四日付機密往信第六二号ヲ以テ報告ノ次第アリタル処其後交通部ヨリ本月十六日付ヲ以テ竹中滿鉄北京公所長宛別紙甲号写ノ通り本件契約不成立ノ旨通告アリ同公所長

九 東三省鐵道問題 一〇六三

一三〇四

一〇六二 一月十四日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吉敦鐵道契約ノ不成立ニ関スル執政指令ニツキ外交總長ニ抗議シ契約ハコレニヨリ影響ヲ受ケザル旨声明シタル件

第二六号

往電第二五号ニ関シ

十三日王外交總長訪問ノ際本使ハ公報所載ノ事實ヲ指摘シ本契約ハ之カ締結ノ經過等總長モ概要承知ノ通滿鉄ト交通總長トノ間ニ合法ニ成立シ居ルモノニシテ之ニ対シ突然執政令ヲ以テ不成立ヲ声明スルカ如キハ誠ニ意外ニ堪ヘス斯ノ如クンハ既往數多ノ國際の合法契約ハ非常ナル不安ヲ感スヘク不合理モ甚タシ我方ハ右命令ニ対シ絶對不同意ナリト述ヘ該契約力之ニ依リ何等影響ヲ受クル事ナキ旨ヲ声明シタルニ總長ハ本契約ノ内容ハ余モ承知シ居ラス數日前当地滿鉄公所員此問題ニ付來訪シ余ハ個人ノ資格ニテ其内容經過真相等説明ヲ聞キタル次第ナルカ前頭命令ハ主管交通部ニテ起案シタルモノニテ外交部ニテハ承知シ居ラサルヘク依テ明日交通總長ニ付経緯取調ノ上何分ノ結果回答スヘシト答ヘタリ

ヨリ右契約擁護方ニ付本使宛請願ノ次第アリタルヲ以テ本月二十二日不取敢外交部宛別紙乙号写ノ通り抗議申入レ置キタルニ付委細右ニテ御了承相成度シ

本信写送付先 奉天 吉林

(付屬書二)

(別紙甲号)

一月十六日付中国交通部ヨリ南滿鐵道株式會社宛第七二号信写

吉敦鐵道請負契約不成立ノ旨通告ノ件

第七二号

逕啓者上年十月二十四日本部葉前總長与

貴社簽訂之吉敦鐵路承造合同及其有関各付件茲因此項合同

並未提經國務會議議決手續尚未完備奉

執政命令不能成立等因用特向

貴社鄭重声明所有前項吉敦鐵路合同及其有関各付件不能発

生效力本部前派執行吉敦鐵路合同之吉敦鐵路工程局局長魏

武英業經本部撤銷委任嗣後該員如有与

貴社接洽事項及簽取任何款項本部概不負責相応函達

查照為荷此致

南滿鐵道株式會社

交通部啓

一三〇五

民國十五年一月十六日

(右訳文)

第七二号

拜啓昨年十月二十四日付ニテ本部葉總長ト貴社ト訂結セル吉敦鐵道請負契約及各種付属文書ハ本契約カ國務會議ノ議決ヲ經タルモノニ非スシテ手續尚完備シ居ラサル為不成立ノモノタルヘキ執政命令ニ接シタルニ付特ニ茲ニ貴社ニ対シ前記吉敦鐵道契約及各種付属文書ハ効力ヲ發生セス本部ニ於テ先ニ吉敦鐵道契約ニ關スル職務執行ノ為任命セル吉敦鐵道工程局局長魏武英ハ已ニ解任セルモノニ有之爾後同人ヨリ貴社ト協議セル事項及調印引出ヲ為シタル一切ノ金額ニ対シテハ本部ハ一律ニ責任ヲ負ハサルコトヲ鄭重声明致スニ付御諒承相成度

民國十五年一月十六日

交通部

南滿洲鐵道株式會社 御中

(付属書二)

(別紙乙号)

一月二十二日付在中國芳沢公使ヨリ王外交總長宛公文写

吉敦鐵道請負契約不成立ニ關シ抗議ノ件

以書翰致啓上候。陳者。客年十月二十四日付ヲ以テ貴國葉

交通總長ト南滿洲鐵道株式會社代表松岡理事トノ間ニ訂結セル吉敦鐵道契約ニ關シ、貴國政府ニ於テハ一月十二日付執政指令ヲ以テ右契約ハ未タ國務會議ニ提出セラレサルモノナルニ付交通部ヲシテ不成立ヲ聲明セシムヘキ旨公布セラレタル処(十三日政府公報)、南滿鐵道會社ヨリノ通報ニ依レハ本月十六日交通部ヨリ滿鐵本社宛第七二号公文ヲ以テ「吉敦鐵道請負契約及各種付属文書ハ本契約カ國務會議ノ議決ヲ經タルモノニアラスシテ手續尚完備シ居ラサル為、不成立ノモノタルヘキ執政命令ニ接シタルニ付特ニ茲ニ貴社ニ対シ前記吉敦鐵道契約及各種付属文書ハ効力ヲ發生セス。本部ニ於テ先ニ吉敦鐵道契約ニ關スル職務執行ノ為任命セル吉敦鐵道工程局局長魏武英ハ已ニ解任セルモノニ有之、爾後同人ヨリ貴社ト協議セル事項及調印引出ヲナシタル一切ノ金額ニ対シテハ本部ハ一律ニ責任ヲ負ハサルコトヲ鄭重声明ス云々。」ト通告アリタル趣ニ有之候。

本件ニ關シテハ本月十三日本使貴外交總長ト會見ノ節面陳シタル通り、該契約ハ滿鐵ト交通總長トノ間ニ合法ニ成立シタルモノニ有之ニ対シ單ニ執政指令ヲ以テ或ハ又前記南滿鐵道會社ニ対スル交通部通告ヲ以テ其不成立ヲ聲明シ又

ハ相手方タル南滿鐵道會社ト承諾ナクシテ有効ニ之カ取消ヲナシ得ヘキモノニ無之、本使ハ当事者タル南滿洲鐵道株式會社ト利益ノ為ニ茲ニ右ノ趣聲明致候。敬具。

大正十五年一月二十二日

日本帝國特命全權公使 芳沢 謙吉

支那共和國外交總長 王正廷殿

一〇六四 二月九日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吉敦鐵道契約ハ正式ニ成立セザル旨ノ外交部

ノ回答ニ対シ反論シタル旨報告ノ件

第七七号

一月二十三日付拙信機密第一〇七号ニ關シ

二月六日外交部秘書沈觀鼎總長ノ命ニ依リ本使來訪一月二十二日付御照會ニ係ル吉敦鐵道問題ニ付テハ予テ交通部ニ移牒シ置キタル処今回交通總長ヨリ回答ニ接シタルカ右ニ依レハ從來借款契約請負契約等ハ閣議ヲ經タル上外交部ヨリ當該國公使ニ通知シ茲ニ初メテ正式ニ成立スルコトナリ居レル処吉敦鐵道ノ場合ニハ右ノ如キ手續ヲ欠キタルニ依リ正式ニ成立セサルモノナル旨ヲ述ヘタルニ依リ本使ハ

九 東三省鐵道問題 一〇六四 一〇六五

右ハ單ニ交通總長ノ回答ヲ本使ニ移牒セラルル次第ナリヤ又ハ支那政府トシテノ回答ナリヤト反問シタル処支那政府ノ回答ナリト答ヘタルニ付本使ハ閣議通過云々ト云フカ如キハ全然支那側内部ノ問題ニシテ我方ノ関知セサル所ナリ日本側トシテハ支那政府ノ交通總長ト契約ヲ締結シタル以上飽ク迄其ノ有効ナルコトヲ主張セサルヘカラス何レ考慮ノ上何分ノ儀申出ツルヤモ計リ難キモ御來談ノ次第ハ極メテ不満足ナル回答ナル旨外交總長ニ伝ヘラレ度キ旨答ヘ置キタリ

奉天、吉林ヘ転電セリ

一〇六五 十月四日 飯田南滿洲太興合名會社社長
木村亞細亞局長 會談

吉会線問題ニ關スル件

大正十五年十月四日吉会線問題ニ關スル飯田延太郎

木村亞細亞局長會談要領

大正十五年十月四日飯田延太郎(南滿洲太興合名會社社長)木村亞細亞局長ヲ來訪シ岡門江架橋問題ニ關スル当方從來ノ尽力ヲ謝シタル上今般愈々右架橋実行ノ運トナリタルニ付テハ此際支那ニ出張シ天國鐵道ノ天宝山敦化間延長

問題ニ関シ支那側官憲ト交渉ヲ開始スルコトト致度ト述ヘタルニ付右ニ対シ

木村局長ハ本年七月吉会鐵道ニ関スル滿鉄大藏理事トノ会谈(滿蒙鐵道問題ニ関スル会谈ノ一部)殊ニ別添滿蒙鐵道ニ関スル方針中吉会鐵道ノ部ノ要領等本件経緯ノ大様ヲ話シ聞カセタル上滿鉄ニ於テハ本問題ニ対シ充分好意ヲ以テ考慮シ居ルノミナラス太興合名關係弓長嶺鉄鉞ニ対シテモ鉞質サヘヨケレハ考慮スヘシトテ好意ヲ寄セ居ル次第ニ付右吉会線問題ニ付滿鉄ヲ向ニ廻シテ事ヲ進ムルハ諸般ノ關係上好マシカラス万事滿鉄ト協調シテ進ムコト肝要ナリ從テ貴下ニ於テモ先ツ滿鉄大藏理事ト協議セラレ且右協議ノ結果ハ一応当方ニモ通報アリタル上支那側トノ交渉ヲ開始セラルルコトト致度ト述ヘタルニ

飯田ハ委細了承セリ万事御指示ノ如クスヘシト答ヘテ辞去シタリ

(大正十五年十月四日岡崎記)

(別添)

吉会鐵道ニ関スル方針

吉林会寧線(實際上ハ敦化会寧線)、本線カ我国々防上並

一〇六六 十月十九日

在奉天吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

吉敦線工事費追加ノ改訂契約ハ張作霖ノ財政窮迫対策ナルコト明ラカナルタメ本件中止方
滿鉄ニ訓令アリタキ旨具申ノ件

第三一八号

十月十九日遼東新聞所報ニ依レハ今回滿鉄ハ吉敦線工事中老爺嶺、大沙河、六道河子、威虎嶺ノ四ヶ所ニ隧道ヲ設クルコト便利ナルヲ発見シ目下調査中ナルカ調査終了後右工事費予算約三百万円追加ノ改訂契約ヲ北京政府交通部トノ間ニ行フヘシ云々トアリ本件實質ハ張作霖カ鐵道資金ノ名目ノ下ニ滿鉄ニ対シ財政ノ窮迫ニ応スル為ノ所為ナルコト明ニシテ彼方頻ニ本件ヲ以テ滿鉄側ニ迫リ居レル趣ハ当地ニ於テ過般來専ラ風聞シ居リタリ右新聞報道事実ナリトセハ滿鉄ハ終ニ張ノ圧迫ニ堪ヘスシテ之ニ出テムトスルモノカト想像セラルル処目下本官カ御來訓ニ基キ張作霖ニ対シ奉票武力維持策カ彼我通商ヲ阻害シ我商民ノ利益ヲ迫害シ居ル事実ヲ指摘シ之カ救済ニ関スル我求メヲ容レサル不都合ニ対シ帝國政府カ甚タ不快ニ感スル次第ヲ暗示シ居ル

經濟上急速實現ヲ要スヘキハ言フ俟タサルトコロナルカ他方吉林会寧線ノ一部タル吉林敦化線ハ目下工事中ニシテ之カ完成ニハ今後約二ケ年半ヲ要スヘキヲ以テ敦化会寧線ハ右吉林敦化線完成後引續キ工事ニ着手スルモ遅カラサルヘク旁々差当リテハ南滿州鐵道会社ヲシテ先ツ長春大賓線及白音太拉開魯線並其延長線ノ二線ノ實現促進ニ努力セシメ而シテ敦化会寧線ハ右二線ニ引續キ之カ促進ヲ計ラシムルコト而シテ右実行方法トシテハ原則トシテ今ヨリ約一年半後ノ時期ニ於テ南滿州鐵道会社ヲシテ支那側ニ対シ本線交渉ヲ開始セシメ以テ吉林敦化線完成ト同時ニ直ニ会寧延長線ニ着手シ得ル様手順ヲ整ヘ置クヘキモ前頭長春大賓線及白音太拉開魯線並其延長線工事遲延シ敦化会寧線工事ト其時期重複スルカ如キ場合ニハ工事費一時ニ高額ニ上ル虞モアルヘキニ付南滿州鐵道会社ニ於テ予メ政府ト協議ノ上敦化会寧線ニ関スル交渉開始方ヲ暫ク延期スルモ差支ナキコトトスルコト、尚敦化会寧間ノ一部タル天宝山会寧間ニハ現在南滿州太興合名会社(飯田延太郎經營)關係ノ天図輕便鐵道アルニ付右輕便鐵道ノ權利買収等ニ関シテハ追テ關係官民間ニ適宜協議スヘキコト

折柄滿鉄力張ノ斯ル要求ニ聽從シ帝國政府亦之ヲ默過ストアリテハ奉票問題ニ対スル交渉モ遂ニ所期ノ目的ヲ達シ難キニ付滿鉄力張ニ対シ承諾ヲ与ヘタリトスルモ奉票問題ニ関スル我要求ヲ容レサル限り此種財政的張作霖援助ハ帝國政府ノ容認スル能ハサル処ナリトシテ本件中止方滿鉄ヘ御訓令相成リ度シ

公使及滿鉄ヘ電報セリ

(4) 實黑鐵道關係

一〇六七 一月十六日

在チチハル中野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

呼海鐵道工事計画等ニ関スル高總弁ノ談話報告ノ件

本機密第一七号

(一月二十七日接受)

大正十五年一月十六日

在齊齊哈爾

領事代理 中野 勇吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

呼海鐵道ニ関スル高總弁ノ談話報告之件